

空飛ぶ学び舎ラボは月刊エアライン2023年12月号掲載されました

# AIRLINE

2023年12月1日発行（毎月1日発行）第43巻 第15号 通巻534号 1980年12月6日 第3種郵便物認可

12  
2023  
月刊エアライン Airline  
vol.534

JALの最上級キャビン現る！



特集 ついに就航するJAL国際線のフラッグシップ、A350-1000の客室空間

## エアライナー・キャビンの最新形を見た！

JALの客室デザイン担当者に訊いた世界観  
そのキャビンで雄弁に語る、JAL国際線の新時代  
世界の主要エアラインを全網羅！  
フラッグシップ機材の客室カタログ



台湾の新星、スターラックス航空の機内でチェック  
エアバスが提案するA350革新  
キャビン幅+4インチの新仕様

旅客機の機内空間に求められる、  
安全のための必須要件

飛行の長時間化がもたらした新展開  
ナローボディ・ロングレンジャー  
その最新シートの実力

## いま航空貨物の最前線をゆく！

●キャセイ747-400ERF@下地島空港  
●日本貨物航空のANAグループ入りで激変！  
●UPSで、DHLで密着した貨物メジャーのオペレーション  
●完全退役が迫る、エアホンコンA300-600Fに大接近！





今をトキメク航空人に会いたい

# 航空業界へ ようこそ!

## Vol.59 航空機チャーターのその先に、 航空教育という新しいフィールド

Photos by Kokubo Yohichi / Text by AIRLINE

### 株式会社JMRS

航空機チャーターを専門とする旅行会社のJMRS(東京都新宿区)。企業や官公庁向けのチャーター機手配を手がけるほか、将来を担う航空人材育成にも力を注いでいる。今後は自社で保有するGSE機材を活用したグランドハンドリング業務にも進出予定。2023年2月には成田空港の地元・芝山町との間で地域活性化包括連携協定を締結した。



「空飛ぶ学び舎」にて、観光バス4台という規模で参加した中学2年生たちを前に、現職のパイロットを講師に迎えたイベントを進行した須賀さん。また別の日に須賀さんを訪ねると、この日は担当するフライトの運航日にあたり空港の現場でその発着に立ち会っていた。

### 株式会社JMRS 営業グループリーダー

#### 須賀 喜一さん

2020年に新卒入社、航空機チャーターの営業・運航手配を担当し、入社3年で現在はグループを率いるリーダー職にある。顧客には防衛省などの官公庁も多数。一方では、今回その現場取材させていただいた航空教育事業の「空飛ぶ学び舎」でも中心的存在で、生徒たちを前に司会進行役も務める。

### 顧客とエアラインの間に立つ

JMRSで営業部門のグループリーダーを務める須賀さんは2020年入社、まさに航空業界が未曾有のパンデミックの渦中にある中で新卒採用された。

「大学時代から航空や旅行業界に興味はありましたが、そうした業種に絞って就職活動をしていただけではありませんでした。ただJMRSの学生インターンシップに参加して業務の現場を見たことで、この会社で働こうと決めました」

インターンシップ中には単に会社見学という枠を飛び出して、実際に空港での業務にも立ち会う機会があった。同社のグループでは、新規に日本へと乗り入れる外国航空会社の就航支援業務も手がけており、そうした機体の受け入れまで見学したことで、かなり具体的な形で入社後のイメージを捉えることができた。須賀さんは話す。

こうして入社した須賀さんは営業職として、顧客とエアラインの間に立ちチャーターフライトをアレンジし、またその運航に際して必要と

なる当局や空港会社、グランドハンドリング等の各種調整業務を担当している。コロナ禍の真只中に入社したとはいえ、定期便が途絶えたからこそ高まったチャーター便の需要も多く、その当初には、「アメリカから日本を経由して母国に帰国する人たちのチャーター便を担当し、防護服を着用して成田空港での業務にあたりました」と、忘れがたいフライトも経験することとなった。

### 「空飛ぶ学び舎」という挑戦

一方、若々しい社風のJMRSでは、コロナ禍を契機として希望あふれるチャーターフライトの企画も生み出された。途絶えてしまった修学旅行に代わる学校行事として、「空飛ぶ学び舎」なるチャーターフライトを提案して、各地の学校や自治体に呼びかけたところ、これが思わぬ反響を呼んだのだ。須賀さんも「行動制限の影響を大きく受けた生徒・児童たちのために何ができるのか。職員室をまわり先生たちの意見を聞きながら、航空会社の機材に余裕があるコロナ禍だからこそ実現可能な、思い出に残るフライトを組み立てていきました」。

**プライベート**▶ 高校、大学とハンドボール部に所属。いままも社会人チームに所属して汗を流しています。

**座右の銘**▶ **走りながら考える**  
壁にぶつかった時にも、自分ひとりで悩んで立ち止まらないこと。仲間と走りながら、より良い仕事をしようという考えから。

ジェットスター・ジャパンの機材を活用したこのチャーターフライトは単に乗客として飛ぶだけでなく、職業体験的な性格を併せ持つ。計15回にわたり運航され、JMRSが教育旅行の領域にビジネスを拡大する契機にもなった。「実施のタイミングで感染者数が増加してしまった学校には、航空会社側とフライトの日程を再調整するなどして、二度とない学校行事を全校に提供することができました」と振り返る。

さらに、2022年10月には成田空港に隣接する航空科学博物館の敷地内に「空飛ぶ学び舎ラボ」をオープン。ここを航空教育の拠点と位置付けて、パイロットや客室乗務員、グランドハンドリングスタッフによる講義、さらに同博物館や空港ターミナルの見学を含めた学習の場を提供。「小学生には社会科見学、中高生にはキャリア教育と、参加する対象によっても趣旨を変えながら、その内容も私たちが練っています」と説明する須賀さん。「航空機チャーターの営業」という名刺の肩書き以上に幅広い、航空の世界を伝える仕事で活躍していた。